

ナバナの新たな出荷規格の検討



写真 アンケート調査用サンプル
(左からサンプル番号 A、B、C、D、E)

表 1 内容量及び包装形態への
消費者アンケート調査結果

サンプル 番号	内容量	包装形態	葉の折込	選択者率 (%)
A	100g	小袋	無	23.2
B	100g	小袋	有	17.1
C	150g	小袋	有	21.8
D	200g	小袋	有	20.1
E	200g	俵型 (慣行)	有	17.8

- 注 1) 回答者数は 298 名。
 2) 葉の折込有は、葉を折り曲げて花蕾が見えるようにした包装。
 3) 葉の折込無は、葉を折り曲げず葉の隙間から花蕾が見える程度の包装。
 4) 有意水準 0.05 において選択者率に差は認められない。

表 2 俵型と小袋の包装にかかる作業時間の比較(ナバナ 4kg 分)

内容量	包装形態	1袋あたりの 作業時間	必要数	作業時間	短縮された時間
100 g	小袋	2分05秒	40袋	1時間23分20秒	10分20秒
150 g	小袋	2分20秒	27袋	1時間03分00秒	30分40秒
200 g	俵型 (慣行)	4分41秒	20俵	1時間33分40秒	—

- 注 1) 数字は、生産者 2 名の平均値。
 2) 16～20 本で 200g になる大きさのナバナを使用した。
 3) ナバナの長さは、切りそろえた状態で包装した。
 4) 4kg 分の作業時間は、1 袋あたりの作業時間に必要数をかけて試算した数値。

ナバナは、200gの俵型の束を包装紙で巻いた形態で流通しています。しかし、小家族用としては量が多いことや、荷造りに時間と労力がかかることから、使いきりサイズで、簡易に包装できる新たな出荷規格が求められています。

そこで、東京都内の量販店で小袋包装に対する消費者の反応をアンケート調査するとともに鮮度保持機能を有するポリプロピレンの小袋にナバナを包装することで、荷造りの労力削減が可能かを調査しました。

写真に示した 4 種類の小袋包装と慣行の俵型包装を並べ、「購入するとしたらどのサンプルを選びますか?」と合計 298 名の消費者に質問したところ、5 種類の包装形態の間

に有意な差(表 1)はなく、小袋包装でも消費者に受け入れられることがわかりました。

労力削減については、生産者に小袋包装してもらい、その作業時間を測定しました。

その結果、通常の出荷規格である 4 kg 箱分の包装を想定した場合の作業時間は、150g 小袋で最も短くなりました。1 袋あたりでは 100g が短いのですが、袋数が多くなり、150 g よりもかえって作業時間が長くなりました(表 2)。これらのことから、新しい出荷規格として作業時間を短縮できる 150g 小袋包装が適すると考えられました。

今後は、小袋包装の販売単価などの経済性について検討します。

(営農システム担当 齊藤格久 088-863-4918)